

## ATIS 総会・第 382 回例会報告

2016 年 9 月 21 日、金沢工業大学大学院虎ノ門キャンパスにて、第 382 回 ATIS 例会が行われました。

あ

まず、代表幹事報告にて会員の入退会状況が説明され、9/21 現在の会員数は 41 社である旨が報告されました。続いて、7 月度例会報告、例会スケジュールなどの説明があり、今年度の第 1 回幹事会の報告がありました。その他、(独)工業所有権情報・研修館からのセミナーなどの情報があり、また、特許庁審査企画室に、IoT ファセット分類記号新設に関して ATIS から意見発信を行ったことが報告されました。

9 月度の例会では 2 件の講演会が企画されました。

1 つ目の講演は、神鋼リサーチ(株)西誠治取締役から、ATIS の新興国の知財調査分科会(以下、新興国分科会)の「ベトナム・インドネシア調査団派遣報告」を行っていただきました。新興国分科会では、2014 年度から ASEAN への調査団派遣を計画して準備を行い、派遣メンバーを選定して 2015 年度にベトナム、インドネシアの特許庁や特許事務所などを訪問しました。両国共に自国の出願が 15%にとどまり、日本が出願数 1 位という状況です。また、両国共に電子出願の導入が計画されており、導入されるとデータベースの充実が期待できるとのことでした。現在はインドネシア特許庁のデータベースが不十分なため、国内の 4 つの特許事務所が独自のデータベースを保有しているのだそうです。やはり、新興国分科会が現地を訪問したことによりわかったこと、感じたことも多く、興味深いプレゼンでした。



2 つ目の講演は、慶應義塾大学理工学部の山口高平教授による「AI(人工知能)の最新動向、人と AI の新しい関係」という、今注目のテーマをお話いただきました。この 20 年間でコンピュータ

一の処理速度が1万倍以上、データを保存するハードディスクの価格は1/1000以下、インターネットの通信速度が1万倍以上になり、高速処理と大量データを必要とするAIを進化させてきました。Deep Learningという機械学習技術の発展もあり、特定分野では人の能力を超える成果を発揮しているとのこと。山口先生から、Deep Learningのわかりやすい説明があり、将棋の分野では普通のプロ棋士ではAI将棋ソフトに勝てなくなり、囲碁の分野でもAIが新しい定石を生み出すことに成功し、ゲームの世界ではAIは人類の最強プレイヤーにほぼ追いついたとのことには驚かされました。今後もAIが急速に進展していき、便利な社会が到来すると予想される一方、AIが人の職業を奪うということも議論されているとのこと。山口先生からは、人とAIが付き合っていくにあたり対立するのではなく、協働するという視点で未来社会を考えるべきということ、AIをいかにうまく利用するかのノウハウが今後は重要になるとのお話がありました。AIの最先端のお話が聞けて、大変に興味深い内容でした。



以上